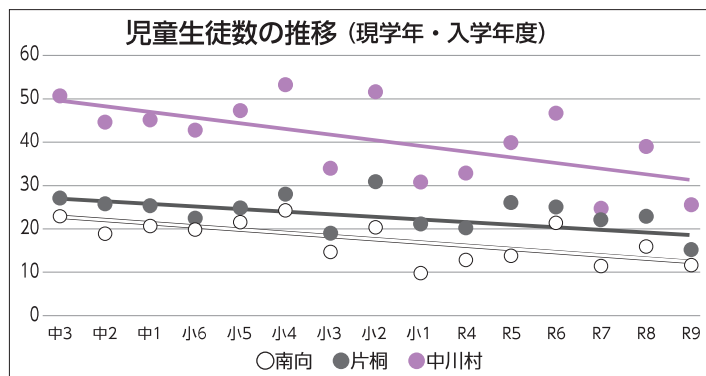


中川村保育園、小・中学校のあり方検討委員会報告 その1

現在、人口減少が村の大きな課題となっていますが、学校教育においても児童生徒数の減少や学校施設の老朽化、新たな教育の導入など、さまざまな課題が顕在化しています。令和2年度の中川村総合教育会議で、「将来を展望した学校のあり方について、幅広い見地から検討する時期にきている」との方向が示されました。教育委員会では、令和3年度に「中川村保育園、小・中学校のあり方検討委員会」を立ち上げ、現在19人の委員が中川村ならではの魅力ある教育のあり方について検討を始めています。村民のみなさんも、ぜひ一緒に考えてください。



◆学校教育の課題

現在、小学校2校、中学校1校が設置されています。小学校は2校とも全学年単級、中学校は全学年2学級の編制となっています。子どもたちは元気にそして素直に育っていますが、その数は減少しています。

5年前、平成29年度の児童生徒数は409人、本年度は381人となりました。左グラフ（令和3年7月現在）は、3から令和9年度新入学児童まで、学年ごとの児童生徒数の推移を示したものです。グラフ中の点が実数ですが、減少の方向に推移していく見通しで、令和

9年度の児童生徒数は326人になる見込みです。

そのほか、学校施設は建築から40年〜50年経ち、老朽化が進んでいます。その上、新しい教育が次から次へと導入されてきます。子どもたちにとって最適で魅力ある教育環境にあるのか。10年後、20年後、30年後を見据えた時、今が教育のあり方を考えるタイミングだと考え検討を始めました。

◆あり方検討委員会での検討

有識者、議会、学校、保育園、保護者、地域から19人の委員をお願いし検討を始めています。

教育委員会から中川村の保育園および小・中学校が魅力ある学びの場となるため次の内容について諮問しました。

①望ましい教育環境のあり方（適正規模、適正配置、教育内容等踏まえて）

②就学前からの一貫した指導・支援のあり方

第1回委員会で学校教育の課題の説明を、第2回委員会では県教委義務教育課による県内の新しい教育の動きについて学習会を行いました。また、新しい教育実践を始めて10年目を迎えた信濃町立信濃小中学校を視察しました。その後2回の委員会を行い意見を交わしました。これまで、次のような意見が出されています。

統合し小中一貫教育（小1から中3まで9年間を見通した教育）

- ・小学校を1校に統合し、中学に隣接して小中一貫校に。
- ・小中を1校に統合し、義務教育学校に。
- ・統合し、学年が2学級になるようにしたい。
- ・保育園から中学校まで一貫した教育がよい。
- ・学校が一緒になれば、専門教科の先生がすべて配置できるようになる。
- ・同じ中川なので一緒にできたらい。東西で雰囲気が違うので、中学校で一緒になる難しさもある。小中一貫教育は積極的に取組みたい。
- ・独自のカリキュラムを組めるので村の目玉ができる。

小学校を1校に統合

- ・小学校を1校に統合し、ゆるやかに変化していく。
- ・学校は現状のまま、子どもの少なさはやり方でカバー

- ・保育園や学校は各地区にほしい。
- ・イェナプラン教育（異年齢で学習グループを組み、子どもの自主性を大事にした教育）を始めた福山市常石小学校などの事例がある。
- ・形態は東西小のまま、校舎を

統合または隣接させて、教員数を保持しては。

・小中一貫教育のメリットが子どもの目線か心配。など
ほかに、「人口（子どもの数）を増やすことも並行して考えるべき」や、「小規模のよさもあるが、人数が少ないと井の中の蛙ではないが、そうしたことが出てしまうのではないか」といった意見もありました。また、「子どもたちの望ましい教育環境は、教育内容も一体として議論すべき」や、「方向を間違えるといけないという思いがあったが、選んだものが正解。こうと決めれば勇気をもって進めば何とかなる」といった意見もありました。委員会での検討は少しずつ深まっています。

◆令和4年度の予定

本年度は、村民のみなさんからも意見をお聞きしていきます。4回の委員会のほかに、関係者へのヒアリング、住民アンケート調査、そして方向性が出たらパブリックコメントを行い、年度末には委員会から答申をいただいで、基本方針を定める予定です。そのために、これから村民のみなさんにも広く知っていただけるよう、お伝えしていきます。

教育委員会総務学校係

TEL 88-11005